

常葉だより

学校法人常葉大学
常葉大学・大学院
常葉大学短期大学部
常葉大学附属常葉中学校・高等学校
常葉大学附属橘中学校・高等学校
常葉大学附属菊川中学校・高等学校
常葉大学教育学部附属橘小学校
幼保連携型認定こども園常葉大学附属とこは幼稚園
幼保連携型認定こども園常葉大学附属たちな幼稚園
常葉大学リハビリテーション病院

第251号

地域社会を作る人が育つ、 知的インフラ拠点へ 躍進する



常葉大学・常葉大学短期大学部 学長 安武 伸朗

令和8年、学校法人常葉大学は創設から80年を迎えます。歴史学者で、教育者の木宮泰彦が浅間神社の北回廊を仮校舎として静岡女子高等学院を創設したのは昭和21年。そこから今日に至るまで、私たちが生きている社会の変わりようは全貌が捉えきれないほどです。

変化が早い例の1つは私の専門であるデザインの分野です。20世紀の半ばには美術の知恵を母体にして駅のサインなどが開発されましたが、その後、マーケティングの進展に合わせて昭和後半には商業広告が盛んになります。平成になるとインターネットの普及に合わせて Web デザインが、21世紀以降はスマートフォンの誕生とともにUXデザインという体験の設計が始まり、現在はコミュニティの維持とAIとの共存が重要な活動になりました。それぞれの時代の科学技術や生活様式が変化を促してきたのです。

私たちの暮らしは日々同じように見えても長い時間で捉えるとこうして変化を続けており、その結果、働き方や仕事の種類も変わり続けています。社会を牽引する人材を育てるために、変化を捉える大学改革がいつそう必要な理由はここにあります。

常葉大学は昭和55年の常葉学園大学の開学以来、地域社会を創造する人材育成の養成に応える形で多くの学部をもつ総合大学へ発展してきました。平成25年に3つの大学を統合して常葉大学として再出発し、平成30年に静岡

草薙キャンパスを開設。令和10年に浜松駅前キャンパスを開設予定であり、静岡県の2つの政令指定都市の中心地で8,000人規模の学生が活動する新しい姿へとさらに変わろうとしています。

しかし改革の実態は、キャンパスの中に息づく教育・研究と学生支援のあり方にこそ現れます。大学は今、「MIRAI TOKOHA」をスローガンに掲げています。地域を牽引する人材教育として、学部・学科を超えて専門知を組み合わせる教養教育科目を設置するとともに、全学科に「数理・データサイエンス・AI」プログラムを導入。また地域の企業や自治体と連携して課題を解決する研究を進めるために共同・受託研究の体制を整備。さらに静岡県教育委員会と連携して、未来に生きる若者たちが大学の知恵を存分に活かして学ぶことができる中高大探究教育の推進など、教育・研究のあらゆる接点で、地域社会の人々の知恵と情報が行き交うオープンな知的インフラの拠点を目指して動き続けています。

一方で私たちには成功体験を元に考えてしまう先入観や、安定を求める気持ちがあることも事実。大切なのは、静岡の持続可能性を生み出す若者たちを育てていくという、教育の役割を信じていることだと思います。学校法人常葉大学が80年という長い時間の中で、常に変化を続ける姿勢が地域の人々から信頼されてきた事実を私たちはこれからも大切にします。

躍進 令和10年4月常葉大学 新・浜松駅前

令和10年4月、
常葉大学浜松キャンパスは
浜松市浜名区都田から
浜松駅南口徒歩7分の
中央区寺島町へ全面移転します。
また、保健医療学部作業療学科は
静岡水落キャンパスへ、
健康科学研究科臨床心理学専攻は
静岡草薙キャンパスへ、
臨床心理教育実践センターは
静岡瀬名キャンパスへ移転します。



※本計画は現時点での予定であり、今後内容に変更が生じる場合があります。

常葉大学は「地域に根差した開かれた大学」を基本方針とし、教育研究活動を通して地域社会の要請に応える人材の養成に努めています。また、「地域貢献」を教育理念の1つに掲げ、教員による公開講座や学生による近隣の小学校の体育や部活動の支援、あるいは全学挙げての災害ボランティア活動などを実施してまいりました。新たにできる浜松駅前キャンパスは知(地)の拠点として、静岡大学をはじめ、浜松市内にある国公立大学との連携を深め、多様なニーズをもつ学生の教育に資する大学群の形成や市内の高等学校との高大連携活動にも力を注ぎ、次世代の若者を育ててまいります。また、浜松駅前キャンパスが発信基地となって、若い感性が生み出す音楽や文化を通して、活気あふれ魅力的な街づくりにも貢献してまいります。

交通の利便性抜群の浜松駅前キャンパスは、「地域に根差し、次世代の若者の夢をかなえ、地域とともに新しい街を創造する」を基本コンセプトに、教育研究活動及び地域貢献活動をなお一層推進し、地域の社会と暮らしにこれまで以上に貢献してまいります。新たな浜松キャンパスのさらなる躍進にご期待ください。

静岡草薙 キャンパス



▶教育学部

- 学校教育課程
- 生涯学習学科
- 心理教育学科
- 英米語学科
- グローバルコミュニケーション学科
- 経営学科
- 社会環境学科
- 保育学科
- 日本語日本文学科
- 保育科
- 英米言語文化専攻
- 国際教育専攻
- 高度教職実践専攻
- 環境防災専攻
- 臨床心理学専攻

▶外国語学部

▶経営学部

▶社会環境学部

▶保育学部

▶短期大学部

▶国際言語文化研究科

▶学校教育研究科

▶環境防災研究科

▶健康科学研究科

浜松キャンパスから移転

静岡瀬名 キャンパス



浜松キャンパスから移転

キャンパス全面移転・キャンパス再編

キャンパス誕生!

JR浜松駅
南口
徒歩

7分

※掲載の外観完成予想CGは、計画段階の図面を基に描き起こしたもので、実際とは異なります。計画・施工等の理由により、色・形状・建具等変更になる場合があります。周りの建物等は一部表現を省略しております。また、植栽は特定の季節や樹種の状態を想定して描かれたものではありません。



浜松キャンパス(都田)から浜松駅前キャンパスへ移転

- ▶ 経営学部
 - 経営学科
- ▶ 健康プロデュース学部
 - 健康栄養学科
 - 保育健康学科
 - スポーツ健康科学科
 - 健康鍼灸学科
 - 健康柔道整復学科
- ▶ 保健医療学部
 - 理学療法学科
- ▶ 健康科学研究科
 - 健康栄養科学専攻



- ▶ 造形学部
 - 造形学科
- ▶ 短期大学部
 - 音楽科
- ▶ 臨床心理教育実践センター



静岡水落 キャンパス

- ▶ 法学部
 - 法律学科
- ▶ 健康科学部
 - 看護学科
 - 静岡理学療法学科
- ▶ 保健医療学部
 - 作業療法学科

浜松キャンパスから移転



常葉大学 令和7年度の取組みとして、ここは未来プランを紹介します！

ここは未来プラン

ここは未来プランを基盤に、人材育成の観点で地域から信頼される大学へ

I 背景 静岡県 18歳人口と常葉大学・常葉大学短期大学部の入学定員

MIRAI TOKOHA

本学の入学定員未充足が続くことになれば、企業の人材不足につながり、その結果、地域の弱体化の可能性がある。県や市町と力をあわせて人口流出をとめることが本学の使命である。

II 目標と効果

目標

地域課題である県外への人口流出防止対策に、教職学及び地域とともに取り組むことで、教育理念の1つである「地域貢献」を果たし、みらいを語りあえる大学づくりを目指す。

効果

入学定員の確保は静岡県の人口流出を止めることになり、本学卒業生の8割強が県内に就職するため、企業にとっても人材確保の源となる。

1 教育改革

- 「人生百年時代」「Society 5.0時代」「VUCA時代」を見据えた教育
- 個性を生かす教育（学修者本位の教育）
- 学部・学科（短期大学部では各科）の垣根を超える教育

- 1 ここは未来教育推進助成事業の推進
- 2 「全学共通科目」の再構築（令和7年度）
 - ★分野を越えた専門知の組み合わせ、文理横断的なカリキュラム
 - ★データサイエンス教育の充実
 - 文科省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度リテラシーレベル」への申請
 - ★全学共通科目「英語コミュニケーション」の改革
- 3 「教学マネジメント指針の概要」のⅡ「授業科目・教育課程の編成・実施」を踏まえたカリキュラムの総点検と「教学マネジメント」の確立
- 4 MIRAIアクションプラン
 - ー未来を担う社会人基礎力養成プログラムの推進ー
- 5 ここは未来教養講座の開講

2 入試改革・募集強化

- 前半入試へ変更
- 「選抜」から「接続」「育成」へ
- 内部広報を含むより効果的な広報活動

- 1 総合能力入試【リーダー育成型】の創設（令和7年度）
- 2 総合能力入試【自己アピール型】の創設（令和7年度）
- 3 全学部にて総合能力入試を実施（令和5年度）
- 4 附属高校入試制度の見直し
- 5 学生主体のオープンキャンパスへの見直し
- 6 トコハ広報大使による広報の充実
- 7 総合能力入試【オープンセミナー型】の創設（令和8年度）

3 高大連携活動の推進

- 1 「総合的な探究の時間」への支援
- 2 定期試験「お助け隊」
- 3 入学前準備教育の充実

4 学生（就職）支援強化

●「主役は学生プロジェクト」

- 1 ここは未来教育教職学協働事業
- 2 ここは未来塾-TU can Project-
- 3 授業のユニバーサルデザイン
- 4 個々の学生の就職・進学のをかなえるキャリア支援
- 5 予測困難な時代を見据えたキャリア支援教育の推進

5 研究推進・産官学の協力体制の強化

- 1 企業との共同研究の推進（大学院も連携した受け入れ態勢の強化）
- 2 寄付講座の実施
- 3 産学官連携授業
- 4 人材確保のための奨学金創設
- 5 ここは未来研究推進事業
- 6 公開講座の充実

具体的な事例

「全学共通科目」から「教養教育科目」へ

令和7年度～



教育改革の3つの方針に基づき、**分野を超えた専門知の組み合わせ、文理横断的なカリキュラム**を目指し、4つの柱「健康な人生を送るための科目群」「社会の営みを知るための科目群」「豊かな人生を送るための科目群」「未来社会を生きるための科目群」で構成する文理横断的なカリキュラム改正を行いました。

10学部19学科の分野を超えた専門的知の組み合わせ

人生100年時代を健康で安全に豊かな人生を送ることを目指した教養教育を行うため、既存の全学共通科目(42科目)を廃止し、教養教育科目(70科目)を新設しました。

「数理・データサイエンス・AI」教育の充実

デジタル時代の「読み・書き・そろばん」といわれる「数理・データサイエンス・AI」の基礎的な能力(リテラシーレベル)は、「Society 5.0時代」に活躍するために必要不可欠です。これらに関する科目を教養教育科目に配置することで、全ての学生が1年次に基礎的な能力を修得できるようプログラムを提供していきます。

また、令和7年度には、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」への申請をしました。

文部科学省「令和6年度私立大学等改革総合支援事業 タイプ3：地域社会の発展への貢献(地域連携型)」に選定



常葉大学は、文部科学省の支援事業「改革総合支援事業 タイプ3：地域社会の発展への貢献(地域連携型)」に選定されました。255の大学・短大が申請し、50の大学・短大が選定されるという激戦でした。

私立大学等改革総合支援事業は、未来を支える人材を育む特色ある教育研究の推進や高度研究を実現する体制・環境の構築、地域社会への貢献、社会課題を解決する研究開発・社会実装の推進など、特色・強みや役割の明確化・伸長に向けて全学的・組織的に取り組む大学等を重点的に支援するものです。

このたび、選定されたタイプ3「地域社会の発展への貢献(地域連携型)」は、地域社会への貢献に関する取り組みを支援するもので、本学の産学官連携や地域貢献活動などが評価されました。

今後もいっそう、地域課題に教職学及び地域とともに取り組むことで、教育理念の1つである「地域貢献」を果たし、未来を語りあえる大学づくりを目指してまいります。

「草薙サロンSHR」を開催

令和6年7月18日、10月10日、11月19日、静岡草薙キャンパスにて、学生と教職員の率直な意見を語り合う座談会「草薙サロン SHR」を開催しました。これは多様な学びの場をつくっている静岡基礎教育センターの学修ピアサポーターによる学生発の企画です。「総合大学の魅力と可能性を広げたい」「違う学部の教員や窓口の職員と話してみたい」という思いがきっかけで実現に至りました。

SHRの意味は「サステナブルなホームルーム」と「昭和S・平成H・令和Rの各世代を超えて話そう」の2つがあります。参加者からは「他学部の先生とマニアックな話題で盛り上がった」「自分の学部にはないタイプの学生と話すことが新鮮だった」などの感想がありました。

世代を超えて一緒に語りたい学生・教職員の皆さんの参加をぜひお待ちしております。写真は令和7年5月19日開催の様子です。



常葉大学・常葉大学短期大学部 同窓会専用ホームページをオープン

このたび、常葉大学・常葉大学短期大学部同窓会専用ホームページを開設しました。同窓生の皆さまは、ぜひ下記二次元コードからアクセスいただけますと幸いです。今後、同窓会からのお知らせは専用ホームページにて行いますので、同窓生専用会員サイト『Tokoha Link』へのご登録をお願いいたします。

『Tokoha Link』では以下の機能を利用することができます。

- 個人情報の変更
- 総会、ホームカミングデー等の事前申込
- 興味のあるテーマのコミュニティに参加
- 卒業生同士のメッセージのやりとり

同窓会
ホームページは
こちら





校長 木宮 暁子

▶ 小さな学校の大きな教育力

常葉の始まりは、昭和21年に開校された、静岡女子高等学院という小さな女学校でした。その女学校こそが、常葉中学校・高等学校であり、「常葉」発祥の地にあたります。令和8年には、創立80年を迎えます。建学の精神にもとづき、本校が期待される社会的役割、School missionとして「社会のために働き、人のために役に立つ、豊かな人生を自らデザインし、力強く歩める、自律した生徒の育成」を目指しています。現在、全校生徒331名の小さな女子校ですが、授業をはじめとする、すべての教育活動が、生徒たちが主体性をもって、当事者意識をもって取り組めるように支援しています。令和7年度は、「授業改革の1年」として、「学び方」を身につけ、どんな課題が出て自分で学ぶことができるスキルを身につける力を育てています。高校生は、「高大連携講座」で、幅広いキャリア教育をインプットして、探究学習においてアウトプットし、自身のキャリアビジョンを作り上げていきます。常葉大学はもちろんですが、様々な外部の力を借りながら、いろいろな体験や人との出会いを積んでいきます。その結果は、プレゼンや小論文という形で、さらに自分のものになるように指導をしています。中学生は、「Tokohaの学びプロジェクト」という探究学習で、企業の皆さんとタッグを組み、テストの点数では測れない、学びに向かう力や人間力を高めています。令和7年度は、常葉大学静岡水落キャンパスとの連携をさらに深めるために、10月に常葉大学と同日に文化祭を開きます。地域も含めて盛り上げたいと思っています。“Make new mistakes!”をスローガンに、挑戦し続けます。

令和7年度 学校方針 School Policy

建学の精神

より高きを目指して ~Learning for Life~

1946年、創立者 木宮泰彦先生は、「美しい心情をもって人と接し、堅固な意志と健康な身体をもっていかなる苦難にも打ち勝ち、より高きを目指して、学び続ける人を育成する」を教育理念とした。

校訓

豊かな教養を身につけ敬愛される若人であれ
清純で誠実で礼節を尊ぶ若人であれ
苦難にもめげず強健な節操ある若人であれ

私達の信条

私達は 自由を尊び 常に明るく強く生きます
私達は 学校を愛し 互いに規律を守ります
私達は 勉学に勤み よく責任を果たします
私達は 服装を正し 礼儀を正しくします
私達は 衛生を重んじ 健康に注意します

【校訓】創立者の教育理念を生徒にわかりやすく伝えたもの

【生徒信条】生徒が毎日こころがけること

School mission

存在意義・期待される社会的役割

社会のために働き 人のために役に立つ
豊かな人生を自らデザインし
力強く歩める生徒の育成

School vision

目指す生徒像

Agencyを意識した
自律した生徒の育成

豊かな人生

人それぞれ考えが違うが、学び続け、挑戦し、
愛する人々とつながりながら充実感をもって
生きること

Agency

変化を促すために、自分で目標を設定し、
振り返り、責任をもって行動すること

自律

自分の意思を持ち、自分のものとして自分の
行動を決定すること

School value

生徒に求められる資質・能力一年生までに身につけた力

学校行事、探究学習、課外活動、教科授業など
すべての教育活動にあてはまる

「知性」を磨く

実際の社会や生活で生きて働く
知識・技能

- 主体的に学習に取り組む態度を養う
- 自ら課題を発見し、探究的な学びに取り組む態度を養う
- 迅速し行動「振り返り」の態度を養う
- 体系的な学びを通して、進路実現可能な資質を養う

学校は、賢さや感動、発見に満ちた
ワクワクする場所

「健全な心と身体」を育む

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力

- 心身ともに健康な生活を送る態度を養う
- 進んであいさつができる態度を養う
- あたたかみのある心をもった言葉かけがちな態度を養う
- 自分軸を確立し、当事者意識をもって取り組む態度を養う

学校は、あたたかい言葉に満ちた
自分らしく居られる場所

「豊かな人間性」を養う

学んだことを人生や社会にいかそうとする
学びに向かう力・人間性

- 全ての活動において、やり抜く姿勢を養う
- 自覚心を育み、他者を尊重し感謝する態度を養う
- 全ての活動において、感謝する喜びを育む
- 行事や教育活動を通して、愛敬を育む

学校は、集団の中で、日々充実した
学びがある場所

スローガン **Make new mistakes! Keep going!** — やってみよう! やり続けよう!

中学 Tokohaの学びプロジェクト



生徒自ら設定した課題の解決に向けて、情報を収集・分析し、学校・行政・地元企業・地域社会と協働して学習活動を進めました。令和6年度は、株式会社静岡銀行と株式会社ヤクルト本社の協力のもと、「答のない創造的な学び」を探究し、「開かれた人間関係を作る力」や「対話力や表現力、プレゼンテーションの力」を磨き、「次世代のリーダー・社会で活躍する人材」を育てました。

令和6年度は、株式会社静岡銀行と株式会社ヤクルト本社の協力のもと、「答のない創造的な学び」を探究し、「開かれた人間関係を作る力」や「対話力や表現力、プレゼンテーションの力」を磨き、「次世代のリーダー・社会で活躍する人材」を育てました。

高校 探究活動・出前授業

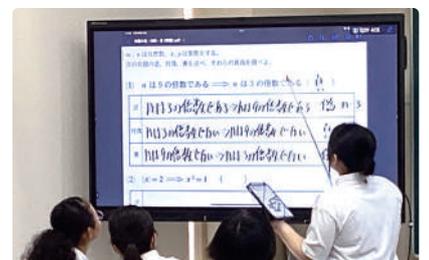


探究活動は、1、2年が5班に分かれて活動をしました。常葉大学看護学科の卒業生との交流会、外国語学部の学生とともにボードゲームを作った持続可能な開発についての議論、ミスオチ交流会との水落・鷹匠マップ作り、橘小学校やこは幼稚園との交流会など、令和6年度から本格的に始動しました。

出前授業では、常葉大学の看護学科の先生方から「基礎看護」について直接講義をしていただきました。設備が整った校舎で実習も実施しました。また、法学部のゼミに参加し「六法全書」の見方を教わりました。

中学・高校 全教室電子黒板導入

令和6年度、常葉中高の全教室に電子黒板が導入されました。授業のみならず、委員会活動や学級活動などさまざまな場面で活用されています。生徒たちのiPadと相まって従来の授業の内容をさらに深めることができました。また、よりよい授業ができるように、電子黒板の使用に関する教員の研修会を定期的に行いました。





校長 関本 和彦

▶ 令和 7 年度 橘中高の取組み、ビジョン

令和 7 年度の橘中高は、本校のグランドデザインにある「自ら学び続け、自らの幸せを感じる生徒」「時代の変化に挑戦し続け地域・社会に貢献できる生徒」を中心とするグロデュエーションポリシーに基づいて、全教職員が共通の方向性をもち、時代の先を見据えた橘の「新しい教育」を実施していきます。学習指導では、基礎学習を徹底したうえで、教科横断的に STEAM 教育や探究型学習（橘クエスト・TPR 活動など）を推進します。また、専任・非常勤・中高全生徒が所持している iPad をフル活用して個別最適な学びを実践します。高大接続教育では、附属校としての強みを活かし、常葉大学および短期大学部との協働によりキャリア教育等を充実させます。これにより、生徒たちがこれからの社会で必要とされる汎用的能力を育むことを目指しています。

進路指導では、多様で変化に富む入試環境のなか、適切な時期に適切な指導を実施し、生徒一人ひとりが主体的に進路選択できるよう導きます。近年、橘の生徒たちの約半数は常葉大学への進学を希望していることから、令和 7 年度も高 3 生の 50%以上が常葉大学に進学できるよう指導していきます。同時に、国公立大学志望の生徒たちを組織的にサポートする「国公立プロジェクト」を推進し、20名以上の合格を目指します。

教員組織においては、橘の「新しい教育」を推進し、公立にはない橘の教育的魅力を強化するとともに、業務の効率化を図ることで動きやすい勤務環境の実現を目指します。また、教員研修を通して、教育力の強化と同時にコンプライアンス意識の向上や危機管理体制の確立を図っていきます。

以上の活動を通じて、橘中高は生徒・保護者・地域から更に信頼される学校づくりを推進し、人口減少が進むなかでも「選ばれる学校」目指して、今後も精進してまいります。



高校 SDGs探究活動エコバッグ製作



令和 6 年度高校 1 年生の SDGs・探究授業において、静岡市ごみ減量推進課とネスレ日本株式会社にご協力をいただき、エコバッグを制作しました。

この制作では、静岡市のごみ減量に意識をもってほしいということを目的に、静岡市のごみ資源を減量する取り組みとネスレ日本株式会社の廃棄資源を紙糸にアップサイクルするプロジェクト「TSUMUGI」とを組み合わせたものです。エコバッグの制作過程で世界のゴミ減量化に関するデータも調べ、自分たちは将来のために何ができるかを考えるきっかけにもなりました。

エコバッグのデザインは橘高校旧 1-1HR の生徒全員でアイデアを出し合って描いたものです。このエコバッグは静岡市が行った標語コンクールの景品にも使われました。今後もこのような活動が広がっていくことを楽しみにしています。

中学 教科横断型学習 ～英訳付き絵本「ためき親父の人生物語」～

橘中学校では探究活動、教科等横断的な学習の一環として、3年前から歴史上の人物を題材とした英訳付きの絵本作りを行っています。3 作品目となる令和 6 年度は、徳川家康の名言を題材とした『ためき親父の人生物語』を作成しました。これは単なる名言集とは異なり、悩みや葛藤を抱える中学生の心に響いた名言を厳選、凝縮した作品です。作成過程のほとんどを生徒が主体となって取り組み、活動を通して問題発見力や課題解決力を身に付け、地域貢献への意欲向上にも繋がりました。



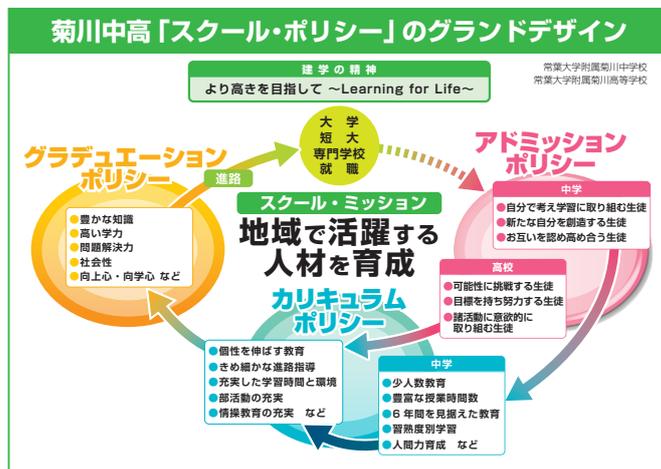


校長 加藤 伸司

▶ 令和7年度 菊川中高の合言葉「応援文化を広めよう！」

教育目標「創造 礼節 自立 共生」。これを具体化する取組みを紹介します。学習面ではICTを授業の中で積極活用し、国公立大学や難関私立大学への挑戦をサポートしていきます。かつ常葉大学との連携教育を深め、それぞれの希望に沿った進路指導をしていきます。TKC(トコキクチャレンジ)プロジェクトと名付けた探究学習では、現代社会や地域の課題を考え、表現する力を養います。学校行事や部活動にも力を注ぎ、思い出に残る中高生時代を過ごしてほしいと思っています。6月第1週は「菊陵祭ウィーク」として体育祭、教育講演会、文化祭を開催。文化祭レベルを超える美術デザイン科のお化け屋敷をはじめ、さまざまな催しが満載です。部活動ではセンバツ出場の野球部をはじめ多くの部が活躍しています。目標に向けて頑張る姿は学校を活気づけてくれています。

校長就任2年目となり、生徒や教職員に向け「学校に応援文化を広めよう」と呼び掛けています。生徒間、生徒教職員間、教職員間、学校と地域など、多くの諸関係において、頑張っている人を応援し、困っている人がいたら助ける風土をつくりたい。時代の流れで学校は変化を迫られていますが、この思いは時代が変わっても変わらない「不易」でありたいと考えています。建学の精神を守りつつ、令和の時代にふさわしい学校づくりをしてまいります。今後とも菊川中高を応援よろしくお祈りします。



文武両道の菊川高校 4つの部活動が全国大会で躍動!

▶ 硬式野球部

菊川高校野球部は、令和7年3月22日第97回センバツ高校野球大会に出場し、聖光学院との初戦に臨みました。満員の甲子園球場で、両チームの意地と力がぶつかり合う、息詰まる熱戦が繰り広げられました。延長12回タイブレークの末、惜しくもサヨナラ点を奪われ、3対4で敗戦となりました。しかし、選手は最後まで諦めることなく、もてる力をすべて出し切りました。この悔しさを胸に、夏の大会に向けてチーム一丸となって再スタートを切ります。温かいご声援、誠にありがとうございました。



▶ 空手道部

令和7年3月24日～27日にかけて和歌山県で開催された第44回全国選抜大会に出場しました。その結果、女子個人組手-48kgで増田亜美選手が第2位に入賞しました。これからも、よりいっそう全国に常葉の名を広められるよう頑張ります。



▶ バドミントン部

令和7年3月23日から石川県金沢市で開催された第53回全国高等学校選抜大会に女子学校対抗の部で出場しました。結果は初戦で茨城県代表の常総学院高校に敗れましたが、それまでの練習の成果を発揮することができました。今後も家族や応援してくれる方々への感謝の気持ちを大切に、目標に向かって頑張ります。



▶ ダンス部

ダンス部COURAGE Etoileは令和7年3月25日に幕張メッセで行われた「USA Nationals 2025」Hip-Hop部門に2年連続で出場しました。大きな舞台上で自分たちらしく踊ることができました。これからもみなさんを笑顔にできるダンスを届けられるよう頑張ります。





校長 粉川 克彦

▶ 未来を切り拓く『生きる力』を育てる

本校の令和7年度の教育方針は、右図のグランドデザインに集約されています。自立の基礎を育むべき小学校教育において、混迷の時代といわれる未来社会を、児童たちが自身の能力と個性を存分に発揮して切り拓いていけるような、知徳体のバランスのとれた「生きる力」を育むことを教育目標としています。

そして、それを実現するための基盤が創立以来変わることのない「三方よし」の信条です。「橘小と言えば三方よし」と言われるほど、児童と教職員のみならず、保護者にもすっかり浸透しており本校の揺るぎない誇りとなっています。

また、本校には、全国で唯一といわれる小学生によるオーケストラ学習や、教育学部附属小ならではの先進的な授業等、多くの特色ある教育活動がありますが、これらはすべて少人数指導によって行われ、児童たちの確かな力の定着につながっています。

もし、「橘小の一番の自慢は何ですか？」と問われれば、迷わず「児童たちの姿です。」と答えます。日々の教育活動を、いつ、誰に、どこを見られても困らないほど、児童たちは明るく伸びやかです。まさに「橘の花のように清らかで素直な子」「橘の実のように心温かい豊かな子」等の願う児童の姿がぴったりです。そんな児童たちのあふれる笑顔をずっと大切にするために、「笑顔あふれる楽しい学校」をグランドデザインの中心に掲げています。

これからも、児童たちが未来を切り拓くために必要となる資質・能力とは何かを問い続けながら、積極的な授業改善と学校改革に努めてまいります。



各校との連携で児童を育てる

▶ 大学との連携

① 教育実習、授業実践演習

教育学部附属小として、毎年多くの大学生が来校します。令和6年度も児童たちは、その出会いを楽しみに活動しました。勉強を教えてもらったり、一緒に遊んだり多くの思い出をつくることができました。大学生にとってもこれからの夢を膨らませるきっかけになり、互いにとって有意義な時間となりました。



② スクールサポートスタッフ

常葉大学の学生が、「スクールサポートスタッフ」として、橘小学校で教職員の仕事の補助をしてくれています。ボランティアとしての活動ですが、令和6年度も多くの熱意ある大学生が橘小学校で活躍しました。本年度も、子どもたちの笑顔のために、そして教員を目指す自身のために、大学生の皆さんが頑張っています。



▶ 中学校、高等学校との連携

学校説明会や学校見学などをとおして、中学校について知る時間を設けました。また、中学生・高校生からパソコンを教えてもらったり、運動を教えてもらったり、本校の行事であるふれあいまつりでブースを出してもらったりとたくさんの交流をすることができました。楽しいだけでなく憧れをもつことができた時間でした。



▶ 幼稚園との連携

令和6年8月6日に、たちばな幼稚園、とこは幼稚園、橘小学校の職員が集まり、「幼児期の育ちと児童期の学びをつなぐ研修会」を開催しました。講師の先生をお招きしてスタートカリキュラムについて学んだり、グループディスカッションを行い意見交流したりしました。幼小連携について、職員が考えることのできる有意義な時間となりました。





▶ チャレンジする子 かかわりを楽しむ子

園長 池田 美穂

安心・安全な環境の下、園児一人ひとりが思いを抱き、あそびの中で試してみたり、不思議に思ったり、発見したり、達成感を味わったり、仲間と協働したりすることを心から楽しむ、そんな園児に育てて欲しいと願っています。

そのために、園児自身が本来もっている主体的、積極的にものごとに関わろうとする力を発揮できるよう、援助していきます。また、保育計画の実践においても、園児の育ちに必要環境の工夫について、園内研修での活発な意見のやり取り、PDCA サイクルの活用等で、幼児教育・保育の質の向上に努めます。

さらに、小学校と接続、地域との連携においても積極的に取り組み、家庭・地域・園が手を取り合い、その真ん中で園児が育つよう、協力体制を整えます。

常葉大学に遊びに行ったよ!

令和6年12月に年中さんが常葉大学を訪れ、「トコトコのもり」の音楽ワークショップに参加しました。大学に入ると少し緊張気味の園児たちでしたが、お姉さんたちと一緒にダンスをするとすっかり仲良し! ピアノやサクソ、マリンバなど、いろいろな楽器があり、子どもたちも興味津々! 色々な楽器の音を聞いたり、映像を見ながらピアノの生演奏を聴いたり、子どもたちもうっとりしていました。最後はタンバリン・カスタネット・すすの中からお好きな楽器を選び、お姉さんたちと一緒に合奏も楽しみました。たくさん音楽に触れ、楽しい時間を過ごしました。



▶ 子どもたちの『もっと!』があふれる幼稚園

園長 松浦 秩保子

令和7年度、重点目標は「今日から明日へつながる保育～一人ひとりの『もっと』をつなげよう～」です。子どもたちの『もっと(意欲)』を生み出し、その思いに寄り添いながら遊びや生活の中で自己発揮できる豊かな環境を軸に主体的に取り組む姿を育むことを目指しています。遊びを中心とした保育の中で、自らの興味・関心に導かれ向かう姿や、夢中になって遊ぶ友だちや保育者など人とふれあい、共に育ち合う姿が育まれるよう継続的な展開を大切にします。またよりいっそう職員研修を充実させ、学び合いをおして専門性向上の実現を図ります。日々の実践と振り返りを重ねながら研鑽をし、より質の高い保育を追求してまいります。

橘小学校に行ったよ!



令和6年度、常葉大学、短期大学部、常葉中高、橘中高、橘小学校と活動や行事を通し交流しました。その中で、10月8日に4歳児が橘小学校を訪問し、1年生と一緒にマスカートープでの表現遊びや校内探検を楽しみました。はじめは緊張していた園児たちも、遊びを通して自然と笑顔や会話が広がっていききました。今回の交流を通し小学生の姿に憧れの気持ちを抱き、未知の学校生活に触れ期待に胸を弾ませる貴重な体験ができました。



▶「元気に家へ帰る」を支える病院 ～常葉大学リハビリテーション病院の取り組み～

院長 名倉 博史

常葉大学リハビリテーション病院の取り組みをについてご紹介いたします。
外来では内科、整形外科が地域のかかりつけ医として診療にあたっております。外来リハビリテーションでは個々の状態の評価に基づき、個別プログラムを提供しております。また、オープンMRIやCTによる精密な画像診断、骨密度測定による骨粗鬆症の診断など、充実した検査体制が整っております。

入院では、80床すべてが回復期リハビリテーション病棟であり、患者様の「在宅復帰」、「日常生活能力向上」、「寝たきり防止」に注力しています。医師、看護師をはじめ、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、管理栄養士、介護福祉士といった多岐にわたる専門職が緊密に連携し、チームアプローチによる質の高いリハビリテーションを提供しています。その成果として、令和6年度の在宅復帰率は95%を達成いたしました。

患者様が安心してご自宅での生活に戻れるよう、入院中に理学療法士や作業療法士などがご自宅を訪問し、生活に必要な動作の確認や環境整備のアドバイスを行う取り組みを積極的に行っています。地域の特性に合わせ、農業に従事されている患者様の社会復帰を支援するため、みかん畑などの作業環境での訓練も実施しています。

介護保険を利用した通所リハビリテーションでは、利用者様が自身の能力を最大限に活かし、「自分を知り自分を活かす」ことを目指しています。個々の目標に合わせたプログラムを通じて、自立した生活をサポートいたします。

未来の医療を担う人材育成にも積極的に取り組んでおり、さまざまな医療専門職養成校からの実習生を受け入れています。臨床の現場での実践的な学びを通して、次世代の医療従事者の育成に注力しています。

今後も、地域のリハビリテーション医療の中核として、質の高い医療を提供することはもちろん、フレイル予防、介護予防といった新たな分野にも積極的に取り組み、地域の皆様の健康寿命の延伸に貢献してまいります。

常葉大学リハビリテーション病院は、地域社会への貢献をよりいっそう深めていく所存です。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



高齢者施設にて「オーラルフレイル」予防活動を開始

令和6年度から地域貢献の一環として、近隣の高齢者施設に伺いオーラルフレイル予防のための活動を実施しています。「オーラルフレイル」は、口の機能の健全な状態（いわゆる『健口』）と『口の機能低下』との間にある状態です。オーラルフレイルであると、将来のフレイル、要介護認定、死亡のリスクが高いことがわかっています。

活動開始当初は「オーラルフレイル」という言葉を聞いたことがない参加者が多い状態でしたが、毎月継続して参加して下さる方が多く、興味・関心の高さを感じました。参加者の方々には、オーラルフレイルの理解を深めるためのクイズや嚥下体操、早口言葉などのトレーニングを提供させていただき、皆さん積極的に取り組んでくださっています。

参加者の方から、「食事の時、よく噛むように気をつけるようになった」「自主トレーニングをしたら口の乾燥が軽減した」など嬉しい感想をいただくことが増え、徐々にオーラルフレイルについての理解が高まっていると感じています。



がんばる卒業生

登録簿に残る仕事、やってみませんか？



うんの ゆり
海野 友里さん

司法書士(静岡市)

▶現在の仕事、やりがい

静岡市で司法書士事務所を運営しています。司法書士は、不動産や会社の登記手続きを代理する法律の専門家です。売買の現場では私の一声で大きなお金が動くこともあり、責任は重いですが、感謝の言葉をいただけるやりがいのある仕事です。

▶大学で学んだこと

大学では、WordやExcelなどの基本操作に加え、PhotoshopやIllustratorといったデザインソフトも学びました。現在の仕事でも、書類や名刺の作成、ホームページづくりなどで役立っており、学んだことは決して無駄にはなっていません。

▶司法書士を目指した理由

大学卒業後はデザイン系の仕事をしていたが、「これからは国家資格という“強み”が必要だ」と思い、司法書士を目指しました。法律の知識はゼロだったので資格スクールに通い、7年かけて合格。何度も失敗し、模試はE判定ばかりでしたが、最後にはS判定を取れるまでになりました。

▶後輩へのメッセージ

将来の道は1つではありません。今は目の前のことに全力で取り組み、自分だけの経験を積んでください。それが将来の大きな武器になります。司法書士という仕事に興味があれば、ぜひ一緒に挑戦しましょう！

常葉学園高等学校
平成12年度卒業
富士常葉大学
環境防災学部 環境防災学科
平成16年度卒業

▶ 常葉大学

2025

OPEN CAMPUS

未来への冒険を、 ここから始めよう

入退場自由

お申し込みはこちら▼



令和7年度 常葉大学公開講座

テーマ「人生 100 年時代を幸せに過ごすために」

- ▶ これからの暮らしを考える
- ▶ 教養を深める
- ▶ 今から始める新しい学び

詳細は
こちら▼



9月から開講予定

常葉大学 大学祭

10月26日(日)

- ▶ 水落祭(静岡水落キャンパス)
※附属常葉中高の文化祭と同日開催

詳細は
こちら▼



11月1日(土)・2日(日)

- ▶ 心薙祭(静岡草薙・瀬名キャンパス)
- ▶ キトルス祭(浜松キャンパス)

▶ 常葉高校



- ▶ 学校説明会
- ▶ オープンスクールデー
- ▶ 授業体験会
- ▶ 入試説明会



▶ 橘高校



- ▶ 学校説明会
- ▶ 吹奏楽専攻・美術専攻体験会
- ▶ 英数科体験会・説明会
- ▶ 部活動体験会
- ▶ 入試説明会



▶ 菊川高校



- ▶ 学校説明会
- ▶ 部活動体験会
- ▶ 文理コース授業体験会
- ▶ 授業見学会
- ▶ デッサン講習会
- ▶ 学校説明会・個別相談会



▶ 橘小学校



- ▶ オープンスクール・学校説明会
- ▶ 入試個別相談会
- ▶ 入試説明会
- ▶ 個別学校見学会
- ▶ 年中年少児対象学校説明会



▶ 常葉中学校



- ▶ 学校説明会・授業体験会
- ▶ プレテスト
- ▶ オープンスクールデー
- ▶ 入試説明会
- ▶ 小学5年生以下対象学校説明会



▶ 橘中学校



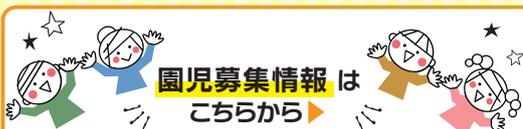
- ▶ 学校説明会・授業体験会
- ▶ 入試説明会
- ▶ 授業公開日
- ▶ プレテスト
- ▶ 小学5年生以下対象学校説明会



▶ 菊川中学校



- ▶ プレテスト・入試説明会
- ▶ 学校説明会
- ▶ 入試個別相談会
- ▶ 小学校5年生以下対象学校説明会



▶ とこは幼稚園

- ▶ 入園説明会
- ▶ 入園前体験



▶ たちばな幼稚園

- ▶ 入園説明会
- ▶ 入園前体験

